



現在を望み、未来を希む展望台

■ BACKGROUND

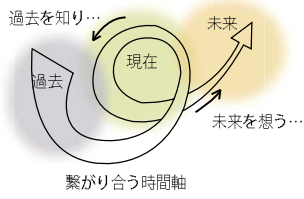
戦争の悲惨さを知り、平和の大切さを発信する沖縄海軍壕公園
 琉球王朝時代には、船の入港を、いち早く首里城へ知らせるために、狼煙をあげる「ヒバンムイ（火を焚く丘）」があった場所とされている。
 戦時中は、日本海軍の司令部壕がおかれ、激戦地となった場所でもあり、丘状となっている立地から、それぞれの時代において共通して発信・伝達機能をもった場所であったことがわかる。
 現在では、沖縄から世界に向け、平和を発信する戦跡公園として整備され、交流や憩いの場として、多くの人々に親しまれている。

展望台から見える景色は、全て消失し、再生し、発展した全容と沖縄の底知れぬ生命力を実感できる随一の場である。

■ CONCEPT

「過去を知り、平和に気づき、未来を想う」

悲惨な暗い過去を経験したから、人々は平和を求め、明るい現在（イマ）がある。戦争という消すことのできない暗い過去を思い返し、悲惨さを知ることで、現在の平和の尊さを実感し、そしてさらに明るい未来へとつながっていく。「過去」と「現在」と「未来」、それぞれが直線的につながっているのではなく、相反する関係でありながら、心理的に螺旋状につながり、平和と有り続ける未来へと向かっていく。

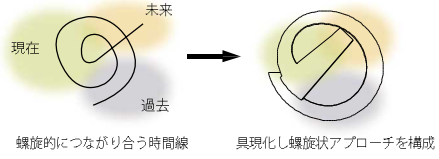


過去を知り、将来の平和を願う子どもたちのメッセージ

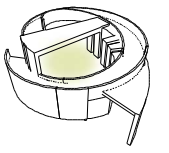
ここでなにを考え、なにを感じるか。
 この場所で現実と向き合い、それぞれの「時間」を感じてくれる場所を提案する。展望台から沖縄の美しい景色と対話しながら、平和の尊さに気づき、将来の明るい見通しと平和と有り続ける未来への願いを込めた展望台を提案する。

■ DIAGRAM

「過去」「現在」「未来」の関係を体系化した螺旋状のアプローチを構成する。螺旋的な形状と、明と暗のグラデーションで「時間」の変化を具現化する。

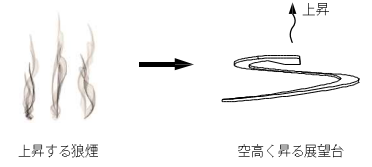


屋根の下、ひらけたスペースに「休憩機能」をもたせる。移ろいでいく影を視覚的に楽しみながら、日常の平和を改めて感受できるスペースを確保する。

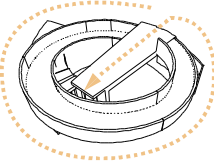


ベンチに座りながら、平和の尊さと風や景色を眺めながら想いを馳せる場

ヒバンムイの場としてあげていた「狼煙」のように螺旋形状を上昇させる。広大な空、未来に向かって天高く昇りゆく形態を与える。



展望機能として、太陽の光と風を感じながら徐々に広大な景色を望める展望台を提案する。スロープで見るにつれ、変化していく景色を楽しむ。

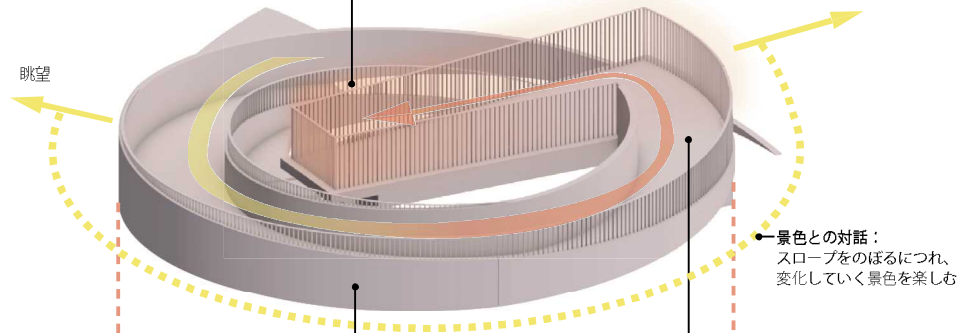


360度見渡しながら、歩くにつれ、上昇するとともに、好奇心を向上させる。ここでしか見ることのできない景色を望む

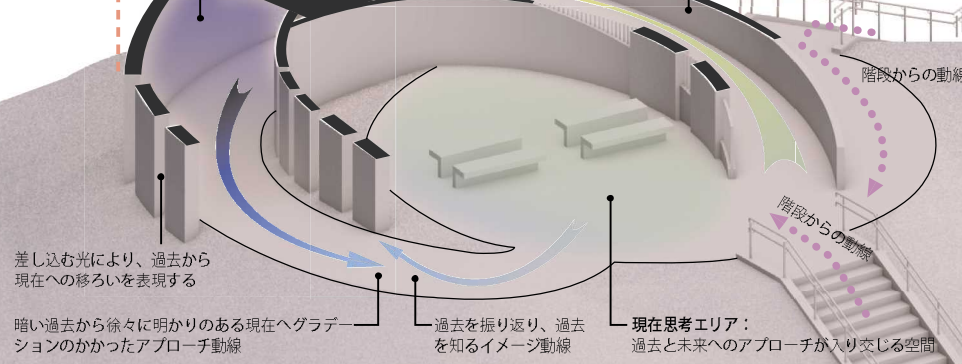


未来希望エリア (未来を希む展望台) :
将来の平和で有り続ける未来への願いを込め、海の方にベクトルを向ける

360度見渡せる眺望の確保 :
首里城方向も含め、沖縄の街並みを見渡せる展望台



過去追想エリア :
悲惨な暗い過去をイメージしたトンネルをくぐり、暗さと静けさを体感する



差し込む光により、過去から現在への移ろいを表現する

暗い過去から徐々に明るのある現在へグラデーションのかかったアプローチ動線

過去を振り返り、過去を知るイメージ動線

現在思考エリア :
過去と未来へのアプローチが入り交じる空間

景色との対話 :
スロープをのぼるにつれ、変化していく景色を楽しむ

未来へ通ずるアプローチ :
太陽の下、風と光を感じながら徐々に広大な景色を望める展望台へ誘う

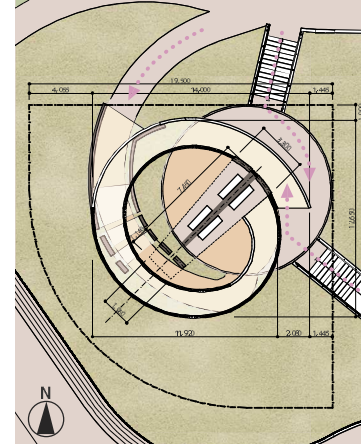
過去追想エリア
悲惨な戦争のあった過去をイメージしたトンネルである。戦争のことだけでなく、過去を振り返り、見つめ直すことは未来を豊かにする。日常とは異なる心情を体感できる場所



くぐった先の明るい場所へ

現在思考エリア
屋根の下、ひらけたスペースにベンチを設え、休憩機能をもたせる。過去と未来(影と光)のあいまいな空間で現在の日常の平和と向き合い、気づき、想いを馳せる場所

未来希望エリア
未来の展望台から、沖縄の美しい景色を一望でき、新しい気持ちで、平和の尊さを感じる。この先の明るく平和で有り続ける未来を、広い空と広い大地に願いを込める場所



■ 配置計画と建築計画

- 眺望の変化を意識した動線 -

- ・既存アプローチから連続させるように、スロープをスパイラル状に狼煙が上昇するような形状、および配置計画とする。
- ・多方向から表情の異なるアプローチにより、階段やスロープから来訪する人々に、興味を与え、視覚的变化を楽しみながら回遊できる動線計画とする。
- ・来訪者は、歩くにつれて景色や明暗の変化を感じ取り、展望台から沖縄の美しい海と街並みを一望し、改めて「気づき」、「知る」きっかけとなる展望台を目指す。

■ バリアフリー計画と維持管理計画

- 全ての人が快適に利用できる展望台 -

- ・スロープの床はコンクリート洗い出し仕上げとし、滑りにくい仕様とする。スロープ勾配は 1/12 以下とし、連続した手摺と適所に踊り場を設け、バリアフリーに配慮した計画とする。
- ・外壁等の仕上げは、高耐候性と防汚性の高い仕上げとし、台風や塩害から躯体を守る。



悲惨な戦争のあった過去をイメージしたアプローチ



明かりがグラデーションのように差し込む



休憩機能を伴った現在思考エリア：日影の下、想いを馳せる



海に向かって平和が続く未来を願う展望台 (東シナ海方向)



沖縄の美しい街並みを見渡せる展望台 (首里城方向)



360度眺望

未来希望エリア :
未来を希む展望台

360度眺望

▼展望 L

過去追想エリア :
暗いトンネルをくぐり抜ける

▼現況 GL

スロープ部壁仕上 :
水系アクリル樹脂装飾塗材を採用し、自然素材風に沖縄らしさを醸す仕上げとする

現在思考エリア :
未来に向け、想いを馳せる場

スロープ :
スロープ勾配は 1/12 以下とし、連続した手摺と適所に踊り場を設け、バリアフリーに配慮した計画とする

水性アクリルシリコン樹脂クリア塗料
※スロープ部分以外の仕上共通

ベンチ
(休憩機能)



現在思考エリアとなるレベルからも眺望できる